### エ. 太郎右衛門自然再生地への水供給状況

### <u>・高水時</u>

平成8年(1996年)~平成17年(2005年)までの太郎右衛門橋水位観測所のデータと平成17年度 (2005年度) 測量調査で得られたデータを基に、上池及び下池への高水時の流入頻度を求めた。結果 は、上池では10年間に11回、下池では19回の流入があったと考えられる。そのため、年間では上池 が1回程度下池では2回弱程度、高水時に流入していると考えられる。

2.0 2.0000									
_	1996年~2005年 (10年間)	条件							
上池流入頻度	11回	荒川との接続水路河床高の最大高 さAP11.07mを越えた水位							
下池流入頻度	19回	荒川との接続水路河床高の最大高 さAP9.17mを越えた水位							

表 1-3 上池及び下池への高水時の流入頻度

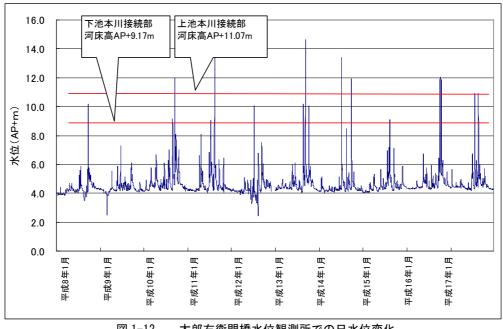


図 1-12 太郎右衛門橋水位観測所での日水位変化

平成8年(1996年)~平成17年(2005年)

### ・農業用水路

農業用水による旧流路への水供給の経路として、中池では赤城樋管からの流入(非灌漑期 0.03 m³/sec:29l/sec) 平成 15 年 12 月 22 日調査)、下池では灌漑期に水田の落ち水の流入が考えられる。 上池には農業用水の落ち水等の流入は確認されていない。

#### ・地下水位

太郎右衛門自然再生地の池、特に上池ではかつて湧水によって豊かな水域が形成されていたとされ る。

平成 15 年度のボーリング結果による地下水位の観測結果では、高水敷の地下水位は観測時点(平成 15年9月~10月)では地表面から約0.5m~約4m付近にある。

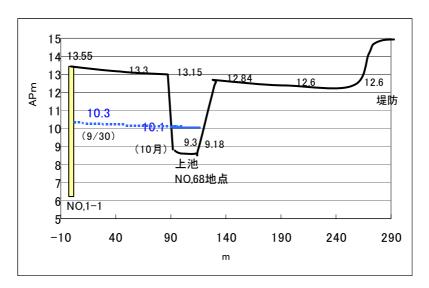


図 1-13 上池周辺の地下水の状況

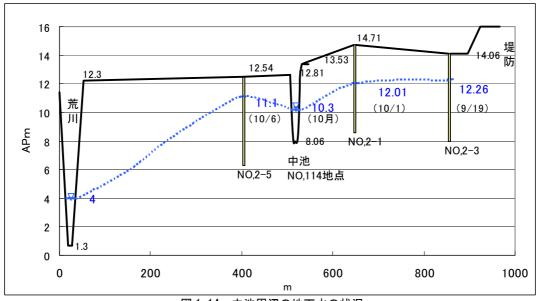


図 1-14 中池周辺の地下水の状況

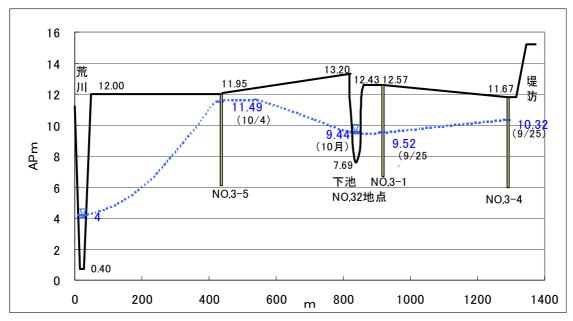


図 1-15 下池周辺の地下水の状況

# (2) 生態系

### ア. 植生

太郎右衛門自然再生地に生育している植物は、水生植物であるヒシや河畔林としてのハンノキなどの湿生植物を中心に86科388種(平成14年度~平成16年度調査)が確認されている。

旧流路周辺の自然植生は、主に旧流路の右岸側に集中している。太郎右衛門自然再生地の特徴的な植生群落としては、上池部分のオギ群落、中池の周辺の湿性地で見られるムクノキ-エノキ群落、乾燥地で見られるクヌギ群落、下池の周辺のハンノキ群落、上池および下池周辺の湿性地で見られるヨシ群落があげられる。

# イ. 動物

平成14年度~平成16年度の調査で、両生類・爬虫類ではヤマカガシや水田や池に見られるトウキョウダルマガエルなど6科9種が、哺乳類ではヨシ原やオギ原を生息環境とするカヤネズミやまとまった自然地を生息地とするホンドキツネなど5科8種が確認されている。

鳥類では、開放水面を餌場とするカイツブリやカワセミ、水辺を餌場として利用するバンやアオサギ、樹林地を生息地や餌場として利用するウグイスやオオタカなど31科77種が確認されている。また、昆虫では133科423種が確認されている内、湿地を代表するシオカラトンボなどのトンボ類が9科25種やハンノキを食草とするミドリシジミなど蝶類が26科71種確認されている。

### ウ. 太郎右衛門自然再生地及び周辺で確認された希少動植物

太郎右衛門自然再生地では表 1-4 に示すとおり、10 類 70 科 106 種の希少動植物が確認されている。このうち、メダカやタコノアシなど環境省レッドデータブックに掲載されている種は 20 種で、 埼玉県レッドデータブックには 104 種が掲載されている。

また、当該地の生物に詳しい方5名と、かつて当該域で釣りをしていた方3名へのヒアリング調査により、当該地で1940~1970年頃に見られた生物として、ニホンアナグマやメダカなど22種の希少種が確認された。このうちニホンアナグマやタマシギなどの9種は、平成8年度~16年度の調査では確認されていない種である。

生物種の減少の原因に関しては、様々な要因が複雑に関わっているため、明確な原因を特定することは困難であるが、近年確認されない種について、おおよそ下記のことが言えると考えられる。

- ・ 確認されている種のうち、ニホンアナグマ及びゲンゴロウは当該地区周辺で絶滅したものとされている。
- ・ タマシギに関しては、荒川中流部全域において生息環境である湿地環境が減少したため、近年 個体数が少く、確認されないものと考えられる。
- ・ ニホンアカガエル、ホトケドジョウ、ヤリタナゴ、ドブガイは水質の悪化、農薬の使用等により、サクラソウは湿性原野の乾燥化等が原因で激減あるいは当該地区では絶滅したものと考えられる。
- ・ ギバチは本川を生息環境としており、かつては本川との繋がりが濃かったことを示す種と考えられる。

# ス	NO, 1 1 2 3 3 4 5 5 6 9 9 10 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	VU VU VU VU	2 RDB (			中池	下池	上池	中池		生息・生育環境  河野、水辺、林緑のヤブ等に生息する。 ヨシ、オギなどに球巣を作り生息する。 ヨシ、オギなどに球巣を作り生息する。 教物となる植物が多く、庭れ場所の多い林や草原を好む。 機耕地から田風及び住宅地域大変で生息する。 機耕地や路林、原野、集落地が混在する環境を好む。 機耕地や路林、原野、集落地が混在する環境を好む。 要島として選米、湿地で緊脅する。 アカマツなど大木に営巣し、小鳥類を指向する。 位地で整落し、冬、河川数などで越冬する。 山地で繁殖し、冬、河川数などで越冬する。 山地で繁殖し、冬、河川数などで越冬する。 のメギなどの大木に営巣し、小鳥類を指向する。 地域で繁殖し、冬、河川数などで越冬する。 カアインの大木に営巣し、湿地でカエルなどを捕食する。 地路で繁殖し、冬、河川数などで越冬する。 のストルの世界に営巣し、小鳥もウエルなどを捕食する。 関節水面を観視とする。 にい途地境帯で繁殖する。開放水面で水草を倒とする。 を島として選来し、越冬する。水を植物が繁茂した水辺に生息する。 のに湿地境帯で繁殖者を、勝敗水面で水草を倒とする。 ない水田地帯で繁殖・越冬する。 ない水田地帯で繁殖・越冬する。 生態系上の様としてまとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される。 甲地、山地の大木に営巣し、昆虫類を倒とする。 樹林地のは食むなど、
# ス	2 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 9 9 110 111 12 13 114 15 16 16 17 17 17 17 18 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	VU VU VU VU	2 RDB (	3		中池	<b>卜</b> ////	Lie	THE STATE OF THE S		3-)、才年などに球巣を作り生息する。 報称なる植物が多く、隠れ場所の多い林や草原を好む。 樹林地から田畑及び性宅地近くまで生息する。 展耕地や海林、原野、集落地が混在する環境を好む。 森林や港木林に生息、巣穴は緑面で大岩、木の根元を利用する。 要島として渡来し、湿地で繁殖する。 アカマンなど大木に営巣し、小鳥騒を捕虜する。 (地地で繁殖し、冬 河川敦などで越冬する。 山地で繁殖し、冬 河川敦などで越冬する。 山地で繁殖し、冬 河川敦などで越冬する。 い地で繁殖し、冬 河川敦などで越冬する。 のメギなどの大木に営巣し、湿地でカエル等を捕食する。 川沿いの密管室で営巣し、小鳥乗を捕食する。 のメギなどの大木に営巣し、湿地でカエル等を捕食する。 別沿いの密管空営巣し、小鳥をかエルなどを捕食する。 のスギなどの大木に営巣し、湿地でカエルなどを捕食する。 のスギなどの大木に営巣し、湿地域が変茂した水辺に生息する。 関節水面を領場とする。 ない水田等湿を変積する。開放水面で水草を倒とする。 を島として渡来し、地冬する。水色物が繁茂した水辺に生息する。 関筋水面を領場とする。 にい水田等電験・越冬する。 にい水田等電験・越冬する。 にい水田等電験・越冬する。 ・ は地の大木に営巣し、昆虫類を観とする。 関放水面を餌場とする。 ・ 関放水面を餌場とする。 ・ 関放水面を餌場とする。 ・ 関放水面を餌場とする。 ・ 関放水面を餌場とする。 ・ 関放水面を餌場とする。
カンドカヤネズミ 2 2 ウザギ科 キュウュフリウザギ 3 4 7 7 7 7 7 8 6 7 7 7 7 7 8 7 7 7 7 7 8 9 7 7 7 7 7 9 7 7 7 7	2 3 4 4 5 6 6 9 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	VUI	NT11	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2							3-)、才学などに球巣を作り生息する。 報称なる植物が多く、隠れ場所の多い林や草原を好む。 樹林地から田畑及び性宅地近くまで生息する。 展耕地や海林、原野、集落地が混在する環境を好む。 森林や港木林に生息、巣穴は緑面で大岩、木の根元を利用する。 要島として渡来し、湿地で繁殖する。 アカマンなど大木に営巣し、小鳥騒を捕食する。 (地地で繁殖し、冬・河川教などで越冬する。 山地で繁殖し、冬・河川教などで越冬する。 山地で繁殖し、冬・河川教などで越冬する。 山地で繁殖し、冬・河川教などで越冬する。 い地で繁殖し、冬・河川教などで越冬する。 のスギなどの大木に営巣し、湿地でカエル等を捕食する。 川沿いの哲學等に営巣し、小鳥をかエルな手横食する。 別語へいるのヨシ原や湿地環境に生息する。 会島として渡来し、超冬する。水土植物が繁茂した水辺に生息する。 関防水面を領場とする。 ない水田等湿をである。 を島として渡来、北田等湿地で越冬する。 ない水田培帯で繁殖・越冬する。 ない水田培帯で繁殖・越冬する。 ない水田培帯で繁殖・越冬する。 ない水田培帯で繁殖・越冬する。 ない、地地の大木に営巣し、昆虫類を観えする。 関放水面を餌場とする。 関放水面を餌場とする。 関放水面を餌場とする。
9 サギ科 キュウシュウノウサギ 3 イ	3 4 4 5 6 6 7 8 8 9 9 10 11 12 13 13 14 11 15 16 16 17 18 19 19 10 11 18 19 19 10 10 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	VUI	NTZT	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2							複物となら植物が多く、風北場所の多いは木や草原を好む。 樹林地から田畑及び住宅地近くまで生息する。 麒林地や海林、鹿野、葉海地が流在する環境を好む。 蘇林や海林、生息り、巣穴は緑面や大岩、木の根元を利用する。 理島として選本、湿地で繁結する。 アカマンなど大木に営巣し、小鳥類を捕食する。 世地で繁殖し、浸り河川散などで近後する。 クヌギなどの大木に営巣し、小鳥やカエルなどを捕食する。 山地で繁殖し、浸り河川散などで近後する。 りスギなどの大木に営巣し、小鳥やカエルなどを捕食する。 川沿いの密壁等に営巣し、小鳥やカエルなどを捕食する。 門沿いの密壁等に営巣し、小鳥やカエルなどを捕食する。 が最単原地と生息する。 受鳥として選生、 起冬する、水生物が繁茂た水辺に生息する。 を鳥として選来し、水田等湿地で超冬する。 たい湿地植物帯で繁殖・北色の大土を増か繁茂た水辺に生息する。 を鳥として選来し、水田等湿地で超冬する。 たい湿地植物帯で繁殖・起冬する。 たい地地帯で繁殖・起冬する。 にいまれば地帯で繁殖・進冬する。 にいまれば地帯で繁殖・進冬する。 にいまれば地帯で繁殖・進冬する。 にいまれば地帯で繁殖・地をする。 地地の大木に営巣し、昆虫類を餌とする。 関放水面を組場とする。 関放水面を組場とする。
### ボンドシュキ 4 ボンドウメキ 4 ボンドウメキ 4 ボンドウメキ 7 ボッチッタ 6 ボン アナマス 6 サギ科 39 ゴイ 7 7 7 7 7 8 6 1 7 7 7 7 7 7 8 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	5 6 8 9 9 11 12 13 13 14 15 16 16 16 17 17 18 19 19 17 17 18 19 19 17 17 18 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	VU VU	VVV   VV   VV   VV   VV   VV   VV	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2							展耕地や森林、原野、集落地が選在する環境を好む。
### 3 カンゴイ 7 7 7 7 8 7 7 7 7 7 7 8 7 7 7 7 7 7 8 7	6 7 8 8 9 10 11 11 12 13 14 15 15 16 16 17 17 18 19 20 21 22 22 23 24 22 22 23 24 25 26 27 28 33 33 34 34 35 36 37 38 38 39 49 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40	VU	EX. EX. VUINTIME TO THE TOTAL T	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2							
### ヨシゴイ 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	7 8 9 10 11 11 12 13 14 15 16 17 18 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 30 31 32 34 35 36 37 38 39 39 40 41 42 44 44 44 45 46 47 48 8 8 49 50	VU VU VU	W. V.	(12) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4							要島として渡来し、湿地で繁殖する。 アカマンなど大木に音楽し、小品類を指含する。 低地から山地の財料はに営業する。 山地で繁殖し、冬、河川数などで越冬する。 リスギなどの大木に営業し、湿地でカエル等を捕食する。 川沿いの智霊等に営業し、小場やカエルなどを捕食する。 別海や池沼の3シ原や湿地度環化生息する。 を島として渡来し、超冬する。水土植物が繁茂した水辺に生息する。 関防水面を領域とする。 ない湿地植物をで繁殖する。 開防水面を領域とする。 ない水田等定数を変える。 ない水田等で整備を変換する。 ない水田等で整備を変換する。 と生態系上の住としてまとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される 平地、山地の大木に営業し、昆虫類を銀とする。 開放水面を組場とする。
P	8 9 9 10 10 11 12 12 13 14 15 16 16 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17	VU	VU (NT NT 2	772) 2 2 2 3 3 4 5 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7							プカマツなど大木に営集し、小県類を摘食する。 低地から加速の簡単地に営業する。 山地で繁殖し、冬 河川敷などで超冬する。 クヌギなどの大木に営業し、湿地でカエル等を捕食する。 川沿いの営豊野に営業し、小島やカエルなどを捕食する。 河岸や池沼の3シ原や池環境に生息する。 河岸や池沼の3シ原や池環境に生息する。 河岸や池沼の3シ原や池環境に生息する。 は、湿地機物帯で緊張する。 水生植物が繁茂した水辺に生息する。 勝茂水面を朝場とする。 ない湿地機物帯で緊張する。
「スリー   17   17   17   17   17   17   17   1	10 11 12 13 14 15 16 17 18 18 19 20 21 22 22 25 26 29 30 31 1 32 33 34 34 35 36 37 36 37 40 41 44 45 46 47 48 48 49 50	DDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDD	(VU CR	) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) )							山地で整補し、冬、河川教などで越冬する。 クヌギなどの大木に営業し、湿地でカエル等を捕食する。 川流1の密望等に営業し、水場やカエルなを捕食する。 貯燥電原地に生息する。 対策や池沼の3シ級や湿地環境に生息する。 を島として選来し、超冬する。水土植物が繁茂した水辺に生息する。 開防水面を領場とする。 ない湿地植物帯で繁殖する。開放水面で水草を餌とする。 ない湿地植物帯で繁殖する。開放水面で水草を餌とする。 ない水田等で繁殖・越冬する。 生鳥として渡来し、水田等湿地で越冬する。 ない水田・常繁殖・越冬する。 ない水田・常繁殖・越冬する。 でい水田・海で東海・北京・北京・北京・北京・北京・北京・北京・北京・北京・北京・北京・北京・北京・
###	11 12 13 14 15 16 17 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 30 31 32 33 34 35 36 36 40 40 44 44 45 46 47 7 48 49 50	DE D	CR NT2 CR	2 2 UU) ) )							クヌギなどの大木に営業し、水陰やカエル母を補食する。 川沿いの態度等に営業し、小島やカエルなどを捕食する。 乾燥草原地と生息する。 河岸や池沼のコシ原や恵津環境に生息する。 を島として選地、超冬する、水生物が繁茂した水辺に生息する。 関放水面を領地とする。 広い湿地植物帯で繋殖する。開放水面で水草を銀とする。 を島として選来し、水田等浸地で超冬する。 広い水田地帯で繋通する。開放水面で水草を銀とする。 を島として選来し、水田等浸地で超冬する。 広い水田地帯で繋通を移る。 住職系上位権としてきとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される 平地、山地の大木に音楽し、昆虫類を銀とする。 開放水面を開始とする。 明放水面を明るとする。
NP	12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 22 23 24 25 26 27 28 29 33 31 32 33 33 34 35 36 37 38 39 40 41 41 42 43 44 44 45 46 47 47 48 48 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49 49	DECEMBER OF THE PROPERTY OF TH	NT2	2							川沿山の岩壁等に営巣し、小鳥やカエルなどを捕食する。 乾燥草原地に生息する。 対像草原地に生息する。 全島として選来し、超冬する。水生植物が繁茂した水辺に生息する。 関放水面を餌場とする。 広い湿地植物帯で繁殖する。開放水面で水草を餌とする。 全島として選来し、水田等湿地で越冬する。 ない水田地帯で繁殖・越冬する。 ない水田地帯で繁殖・越冬する。 ない水田地帯で繁殖・越冬する。 ない水田地帯で繁殖・越冬する。 にい水田地帯で繁殖・越冬する。 世際人に関佐してきとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される 平地、地地の大木に営巣し、昆虫類を餌とする。 開放水面を餌場とする。 樹林地に生息する。
# 1	13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 33 34 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 47 48 49 50	i DD	EN(VI) ( WU	U) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) )							乾燥草原地に生態する。 河岸や池沼の3シ原や湿地環境に生息する。 冬島として渡地、超冬する、水生植物が繁茂した水辺に生息する。 開放水面を銅場とする。 開放水面を銅場とする。 ない湿地機物帯で緊張する。開放水面で水草を翻とする。 を鳥として源来し、水田等湿地で超冬する。  広い水田地帯で繁殖・越冬する。  にい水田地帯で繁殖・越冬する。  にい水田地帯で繁殖・越冬する。  にい水田地帯で繁殖・越冬する。  では、地地の大木に営巣し、昆虫類を観とする。  開放水面を翻場とする。  開放水面を翻場とする。
EOイナ   15   17   17   17   17   17   17   17	15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 26 27 28 33 34 35 36 37 38 39 44 44 44 45 46 47 48 49 50 50		CR VU VU VV	2) N) ) 22 2) 22 2) 2)							冬島として選来し、超冬する、水生植物が繁茂した水辺に生息する。 開放水面を餌場とする。 広い湿地植物等で繋積する。開放水面で水草を餌とする。 冬島として選来し、水田等湿地で越冬する。 広い水田地帯で繋積・越冬する。 丘い水田地帯で緊強・越冬する。 住職系上位権としてまとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される 平地、山地の大木に営巣し、毘虫類を餌とする。 耐放水面を餌場とする。 樹林地に生態する。
「CO	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 30 31 32 33 34 35 36 37 38 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50		VU CR CR (NT2 CR(E (VU VU VU NT2 NT2 VU VU NT2	22 22) 22) 22)							開放水面を領域とする。 広い湿地植物帯で製造する。開放水面で水草を餌とする。 を鳥として選来し、水田等湿地で超冬する。 広い水田地帯で製造・越冬する。 生態系上位性としてまとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される 平地、山地の大木に音楽し、昆虫類を餌とする。 開放水面を削唱とする。
### オガバン 17 オガバン 17 オガバン 17 オガバン 17 カブシギ 77 クリー 18 18 28 27 27 27 27 27 27 27 27 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28	17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 36 37 38 39 40 41 42 42 45 46 47 48 48 49 50	i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	CR (NT2 CR (E) (NT2 CR (E) CR (E) (NT2 CR (E) CR (E	2) 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 2							広い湿地植物帯で緊張する。開放水面で水草を観とする。 を鳥として渡来し、水田等湿地で越冬する。 <mark>広い水田地帯で緊急・越冬する。</mark> 生態系上位種としてまとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される 平地、山地の大木に営巣、昆虫類を銅とする。 樹林地に生息する。 樹林地に生息する。
FNJ科 タゲリ	18 19 20 21 22 23 24 25 26 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 42 43 44 45 46 47 48 49 50	i i i i i i i i i i VU	(NT2) CR (E (VU ) (VU ) (NT2) (NT2) VU (NT2) VU (NT2) VU (NT2) VI (NT2) NT2 (NT1 NT2 (NT1 NT2) (NT2 (NT2) (NT2) (NT2) (NT3 (NT2) (NT3 (NT2) (NT3 (NT3 (NT2) (NT3 (NT3 (NT3 (NT3 (NT3 (NT3 (NT3 (NT3	2) N)							を島として選来し、水田等運地で越冬する。 広い水田地帯で製造 越冬する。 住態系上位権としてまとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される 平地、山地の大木に営機し、毘虫類を観とする。 耐放水面を餌場とする。 樹林地に生態する。
20	20 21 22 23 24 25 26 27 28 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 47 48 49 50	i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	(VU VU V	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2							生態系上位種としてまとまった自然環境に生息し、樹林地の改変などにより生息環境に対する影響が懸念される 平地、山地の大木に震視し、毘虫類を観とする。 関放小面を観ませまる。 樹林地に生患する。
アガバスク カウセミ科 カウセミ 22 ウグミ科 カウセミ 22 ウグミ科 リングミ科 リングミ科 リング・ス コヨシキリ アナリ科 ベニマシコ インガメ科 インガメ インガメ インガメ インガメ インガス アカガエル科 コーキングカガエル ココ・オーア・カガエル コーキングカガエル アオガエル科 コーキングカガエル コーキーア・カガエル コーキーア・カガーア・カーア・カーア・カーア・カーア・カーア・カーア・カーア・カーア・カーア・カ	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	VU NT2 (NT2 VU (NT2 VU (NT2 VI VI NT2	22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22							平地、
アクマミ科 カウセミ 22  ツグミ科 ルリピタキ 22  フクイス 33シキリ 22  オシガメ科 イシガメ 22  オシガメ科 イシガメ 22  オシガメ科 イシガメ 22  オシガメ科 イシガメ 22  オシガメ科 7シガエル 32  アオガエル科 2ムシク 33  アオガエル科 2ムシクカガエル 37  アオガエル科 2・エンアカガエル 33  ドジョウ科 ボトケドジョウ 33  ドジョウ科 ボトケドジョウ 33  ドジョウ科 ボトケドジョウ 33  ドジョウ科 ボトケドジョウ 44  オンズオ フマズ 38  メダカ科 メダカ 44  フィ科 ウキエリ 44  フィス 38  メグカ科 カウエリ 44  フクガニ科 ウキエリ 44  フクガニ科 50スカウトゼ 45  スアナズ科 フマズ 38  メグカ科 7カカナビアラガイ 45  モノアラガイ科 1マブナ 45  マンガカ 10カー 10カー 10カー 10カー 10カー 10カー 10カー 10カ	22 23 24 25 26 27 28 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 47 48 49 50	EN VU	NT2 (NT2 VU (NT2 VU (NT2 VU NT2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2							開放水面を餌場とする。 樹林地に生息する。
サッチ科   カリピタキ   22   ウグイス   23   フグイス   27   フグイス   23   フグイス   23   フグイス   23   フグイス   24   フグイス   24   フグイス   25   フグイス   25   フグイス   26   フグイス   27   フグガス科   インガメ科   インガカル   スカンアカガエル   37   フグイス   36   フグイス   37   フグイス   37   フグイス   38   アオガエル   37   フグイス   38   アオガエル   37   フグイス   38   アオガエル   37   フグイス   38   アオガエル   37   フグイス   38   アイズ科   イングナ   38   アイズ科   イングナ   38   アイズ科   イングナ   38   アイズ科   イングイ   44   フグイス   36   アイブイ   47   フグイス   48   フグイス   48   フグイス   49   フグイス   29   フグイス   20   フグイス   29   フグイス   20   フグイス	24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	(NT2) VU (NT2) VU (NT2) VU NT2 NT2 NT2 NT2 (NT RT NT2 NT2 NT2 CR	2) 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 2							樹林地に生息する。
1954日   22   25   25   25   25   25   25   2	25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	VU (NT2 VU VU NT2 NT2 (NT RT NT2 NT2 NT2 NT2 NT2 NT2 NT2 NT2 NT2 NT	2)							
Phリ科 ペニマシコ   22   22   27   27   27   27   27   2	26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	(NT2 VU VU NT2 NT2 NT2 (NT RT NT2 NT2 NT2 NT2 NT2 CR	2)					j	ļ	ササ藪をともなう低木林、林縁などに生息する。
イシガメ科   イシガメ   22   20   27   27   27   27   27   27	27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	VU VU VU NT2	! !							夏鳥として渡来、ヨシ原を中心に営巣する。 河川沿い、湿原周辺の灌木地、薮地等で繁殖する。
出版	28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	VU NT2 NT2 (NT RT NT2 NT2 NT2 NT2 NT2 NT2 CR	)							池等水域に生息する。近年減少が著しい。
大学   1	30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	NT2 (NT RT NT2 NT2 NT2 EN CR	)							林の朽木や落ち葉の下に潜む。
2	31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	( NT RT NT2 NT2 NT2 EN CR	)							水辺でカエルや小魚を補足する。
上野	32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	RT NT2 NT2 NT2 EN								草地や樹林地でネズミ等を捕食する。 周辺に樹林地、草地のある池沼や水田に生息する。
14	33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	NT2 NT2 NT2 EN CR	2						ļ	周辺に樹林地、早地のある地沿や水田に生息する。 池、水田に生息する。
3 (4科 +ンプナ   33   1	35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	NT2 EN CR								池、水田に生息する。
### 1997년 33	36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	EN CR		_I						水田、草地に生息し水辺周辺の土中に穴を掘り産卵する。
無類	37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	EN VU	CR	-	-					<b></b>	水生植物のある浅瀬に生息する。 河川の下流や支川、灌漑用水、湖沼に生息し二枚貝に産卵する。 やや流れのあるところを好む。
本学科	38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	VU									河川の下流や支川、准改用水、湖沿に生息し二枚貝に産卵する。やや流れのあるところを好む。 湧き水由来の細流に生息する。
メダカ科   メダカ   44     八ゼ科   つキゴリ   41     フォブリ   14     フォブリ   44     フォブリ   47     フォブリ   47     フォブリ   47     フォブリ   47     フォブリ   47     フォブリ   47     ファブリ   27     ファブリ   ファブリ   28     ファブリ   ファブリ   27     ファブリ   ファブリ   27     ファブリ   ファブリ   28     ファブリ   ファブリ   27     ファブリ   27	40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	VU									岩陰や水際植生に潜む。
八七科   ウェゴリ   41     ジュスカケハゼ   42     ジュスカケハゼ   43     ジュスカケハゼ   44     ジュスカケハゼ   45     イワガニ科   モクスガニ   46     モノアラガイ   45     ドアラガイ   47     ドアラガイ   48     ドアラガイ   48     ボードラカイ   49     ボードラカイ   49     ボードラカイ   48     ボードラカイ   49     ボードラカイ   49     ボードラカイ   49     ボードラカイ   49     ボードラカイ   49     ボードラカイ   49     ボードラカイ   48     ボードラカイ   49     ボードラカイ   49     ボードラカイ   49     ボードラカイ   47     ボードラカイ   48     ボードラカイ   48     ボードラカイ   49     ボードラカイ   49     ボードラカト   59     ボードラカト   79     エートラカト   79	41 42 43 44 45 46 47 48 49 50	:	VU		_Ţ						産卵場である水田等浅瀬がある水域に生息する。
Right	42 43 44 45 46 47 48 49 50		VU			ij				I	池や水田など水生植物が繁茂した浅瀬に生息する。 一般に中下流の流れの緩い箇所に生息する
RMM	43 44 45 46 47 48 49 50		VU		$\dashv$				<b> </b>		一般に中下流の流れの緩い箇所に生息する
世	45 46 47 48 49 50		EN			l					比較的清水な池に生息する。
E.   アラガイ   44   カウコザラガイ   45   カウコザラガイ   45   インガイ料   インガイ   45   インガイ   インガイ   47   インガイ   47   インガイ   47   インガイ   48   ドブガイ   49   ドブガイ   49   ドブガイ   49   ドブガイ   49   ドブガイ   55   アグバチョウ料   ドンチョウ   55   アグバチョウ料   ドンチョウ   55   アグエコガ料   オナガエズアオ   ドンチョウ料   トンナンドモディバナアブ   56   ドンチェバル   トンナンドモディバナアブ   56   ドンチェバル   トンナンドモディバナアブ   56   ドンチェバル   19   19   19   19   19   19   19   1	46 47 48 49 50	1	NT2		_[						河川の上流域まで生息し、河口域で繁殖する。羽化後河口周辺海域で成長し川へ遡上する。 池、小川に生息、農薬、生活排水に弱い。
現現   カウコザラガイ 4 4 7 2 3 4 4 7 2 3 4 4 7 2 3 4 4 7 2 3 4 4 7 2 3 4 4 7 2 3 4 4 7 2 3	47 48 49 50		DD DD		+						池、小川に生息。農業、生活排水に勢い。 同上
### 1757カイ   45   1757カイ   4	49 50		NT		-+					<u> </u>	同上
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	50	NT	VU								同上
世世リチョウ科 ギンイチモンジセセリ 55 アゲハチョウ科 ドンイチモンジモリ 55 アゲハチョウ科 ドリンジミ 9アハチョウ科 2ドリンジミ 9アハチョウ科 2ドリンジミ 9アハチョウ科 3ドリンジミ 9アハチョウ科 3ドリンジミ 9アハチョウ科 3ドリンジミ 9アハチョウ科 3ドリングミ 3ドリングミ 3ドリング・			NT2		∔					ļ	池沼に生息し、水質の悪化に弱い。タナゴ類の産卵母貝となる。
アゲハチョウ科   シャコウアゲハ   55     アゲハチョウ科   ドリシジミ   55     アゲハチョウ科   ドリシジミ   55     アゲルチョウ科   アゲルチョウ   55     アゲルチョウオ   アゲルチョウ   55     アゲルチョウオ   アゲルチョウオ   75     アゲルチョウオ   アゲルナー   75     アゲルオー   75   75     アゲルオー   75   75   75   75     アゲルオー   75   75   75   75     アゲルオー   75   75   75     アゲルオー   75   75   75   75     アゲルオー   75   75   75   75     アゲルオー   75   75   75   75   75     アゲルオー   75   75   75   75   75     アゲルオー   75   75   75   75   75   75   75     アゲルオー   75   75   75   75   75   75   75   7			NT2		-	- i					ヘトロの堆積していないブランクトンの多い止水域に生息する。 ススキなど、イネ科の草地を幼虫期の食草とする。
タテハチョウ科 とオドシチョウ 5-5 フェーター 1 カーラ 1 カーフ 1 カーフ 1 カーラ 1 カーラ 1 カーフ 1 カーフ 1 カーラ 1 カーフ 1	52		NT1		-1						堤防などの草地にあるウマノスズクサを食草とする。
2	53		NT1								ハンノキの若齢樹を主な食草とする。
ジャノメチョウ科         ジャノメチョウ科         56           ヤママュガ科         オナガミズアオ         7.           ハナアガ科         トナマンハテモドキハナアブ         55           ハナナガモモブトハナアブ         56           ハナナガモモブトハナアブ         66           カリアグムシ科         ヤマトシリアグ           メクカリカ         66           オクル科         イケボウル           アメンボ科         66           スムシ科         トサウシガメ           キリギリス科         66           オナガササキリ         66           オナガササキリ         67           カインマ科         オナガリウキリ           オスムシ         77           マンマ科         ススムシ         77           オンストンマ         77           オオトリアンマ         78           オオキトリボ         77           オフトリフンダマシ         78           オフトリフンダマシ         78           オフトリフンダマシ         78           オフター科         スクラービ           マツモ科         72           スクタース         72           アクタム         72           アクタム         72           オフタース         73           アンダイト         72           アンダイト         72           アンダ	54		VU							ļ	雑木林等落葉広葉樹林に生息する。
マママコガ料 オナガミズアオ 55  ハナアブ科 ヒサマツハチモドキハナアフ 55  ハデモドキハナアブ 55  ハデモデドドハナアブ 66  ジリアグムシ科 ヤマトツリアグ 66  アンゴロウ料 グンゴロウ 66  ボクル科 ヘイケボクル 66  アメンボ科 12サキアシンボ 66  「スナンガス 66  「スナンアメンボ 66  「スナンアメンボ 66  「スナンガス」 66  「スナンガス」 66  「スナンガス」 66  「スナンガンス」 66  「スナンガンス」 66  「スナンガンス」 66  「スナンガンス」 67  コカエギ科 ファンムシ 68  オナガササギリ 68  イフィスムシ科 2プリコムシ 77  カナガカサギリ 77  コオロギ科 72コオロギ 77  スズムシ科 スズムシ 77  ヤンマ科 77カミンヤンマ 77  トンボ科 ヒメアカネ 77  オオナンボ 77  オオナトンボ 77  オオナトンボ 77  オオナトンボ 77  オオナトンボ 77  オオナトンボー 77  オオナンボー 77  オオナトンボー 77  オオナトンボー 77  オオナトンボー 77  オナトンボー 77  オオナンボー 77  オナトンボー 77  オナトンボー 77  オオナトンボー 77  オナトンボー 77			NT1		-					-	タチヤナギなどヤナギ類を食草とする。 ススキ草原に生息する。
Reb	57		LP		_						ハンノキを食草とする。
Rich	58		NT								雑木林等に生息する
Red	59		NT1							ļ	クヌギ林を生息環境とする。
昆虫         サンゴロウ料         ボクル村         ヘイケボタル         66           オクル科         ヘイケボタル         65         7メンボ科         64           アメンボ科         エウキアメンボ         66         8         2メンガス         66           ミスムシ科         ミヤウミズムシ         65         67			DT CR		-						樹林地や草地に普通に見られる。
# カリル科 へイケボタル 6: アメンボ 1 サキアメンボ 6: アメンボ 1 サキアメンボ 6: アメンボ 1 トサ・アメンボ 6: アン・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・	62				1						大きな人工湖や池沼に生息する。
「パネナシアメンボ   65	63		NT2	2		ļ					水質、水量が確保された止水に生息し、ヒメモノアラガイなど巻貝を捕食する。
宝ズムシ科   ミヤケミズムシ   66     サンガメ科   トゲサシガメ   67     オーザリス科   エソウュムシ   68     オナガササキリ   68     オナガササキリ   70     オナガサキリ   70     オナガサキリ   70     オナガサキリ   70     オナガサキリ   70     オオロギ   72     スズムシ科   72     スズムシ科   73     スズムシ科   73     スズムシ科   74     スズムシ科   74     スズムシ科   75     オオトンボ   77     オオトンボ   77     オオトンボ   77     オオトンボ   77     オオトリアンダマシ   78     オフラインダ科   スアラビ   79     マッモ   79     スプラビ   79	64									ļ	ヨシなど抽水植物がある水域に生息する。
サシガメ科         トグサシガメ         66           キリギリス科         エゾウュムシ         66           イフカササキリ         66         オナガササキリ         66           イフタタイ         フラリュラバスタモドキ         77           フオロギ科         クマコオロギ         72           スズムシ科         スズムシ         77           ヤンマ科         ネアカヨシセンマ         77           アンマ科         スアムシ         77           オプカンマ         77         アナイトンボ         77           オオキレンボ         77         オオキトンボ         77           オオトンボ         77         カオイトンアクマシ         86           オフリニングマシ         50         18           マッモ         87         マッモ         88           アクダム科         アングシス         18         アングシス           アクダム科         アングシス         18         アングシス           アクダム科         アングシス         18         アングシス           アクダム科         アングシス         18         アングシス           アングス         アングシス         18         アングシス           アングス         アングシス         18         アングンス           アングス         アングンス         18         アングンス           アングス         アングンス         18			NT1		-						ビシなど浮葉植物の生息する解放水面の池沼に生息する。 池・沼に生息する。
# 中Jギリス科 エゾツユムシ 66 ガナガササキリ 66 ガンカイカサキリ 77 フォロギ科 クマコオロギ 77 フィムシ科 スズムシ 77 マンマ科 スズムシ科 スズムシ 77 マンマ科 スズムシ 77 マンマ科 スズムシ 77 マンマ科 スズムシ 77 マンマ科 スズムシ 77 オオキンボ 78 コガネグモ科 コガネグモ 78 オオキンボ 78 カオ・リバアンダマシ 86 ボウライシダ科 ミズワラビ 86 マツモ科 マツモ 86 ドクダム科 パングショウ 86 エオ・シが 70 エオ・シが 70 カオ・リバアショウ 86 アクダム科 フリア・ショウ 86 フィーノシ科 70 フェーノシ科 70 フィーノシ科 70 フィーノシ科 70 フィーノシャ 70 フィート 7	67	_	RT		1					l	/6 /IIC ± 0.7 V:
パッタ科   ショウリョウパッタモドキ   77	68		( NT	)							まとまった樹林地に生息する。
クルマパッタ         77           コオロギ科         クマコオロギ         77           スズムシ科         スズムシ         77           マンマ科         ネアカヨシセンマ         74           アオヤンマ         76         77           オオトンボ         77         77           オオキトンボ         77         78           カオ・トンボ         77         78           カオ・トンボ         77         78           カオ・トンボ         77         78           カオ・トンブ・ファット         75         79           カオ・トリノフ・ダマシ         85         79           マッモ         79         85           マッモ         79         85           コキノシタ科         79         79           カオボノンロフ・レニック         85           フェノシ         84           フェノシ         84           フェノシ         85           フェノシ         86           アンダン         79           フェノシ         85           フェノシ         86           アンダン         79           アンダン         79           アンダン         79           アンダン         79           アンダン         79 <t< td=""><td>69</td><td></td><td>(NT</td><td>)</td><td>_</td><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>日当たりの良いイネ科の草地に生息する。</td></t<>	69		(NT	)	_						日当たりの良いイネ科の草地に生息する。
コオロギ科			NT RT								ススキ草原に生息する 草地に生息する
スズムシ科 スズムシ 7: ヤンマ科 ネアカヨシヤンマ 7: トンボ科 ヒメアカネ 7: オオキレボ 7: コガネグモ科 コガネグモ 7: オオキレボ 7: カオ・レボー 7: オオキレボ 7: オオトリカンダマシ 7: カカードリカンダマシ 8: オッライシダ科 スプラビ 8: マツモ科 マツモ 8: トクダム科 ハンゲショウ 8: ユキノシ科 7コノアシ 8: ユキノシ科 7コノアシ 8: カカードリカンダン 8:	72		(NT	.)	-	- i				-	湿性草地に生息する。
アオヤンマ         75           トンボ科         ヒメアカネ         77           オオキトンボ         77         オオキトンボ         77           オオ・ルリフングマシ         78         カカイトリノフングマシ         80           ホウライング科         スペラビ         81         マッモ         82           ドクダム科         ハングショウ         83         32 <t< td=""><td>73</td><td></td><td>NT1</td><td></td><td></td><td>l</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>草地、樹林地に生息する。</td></t<>	73		NT1			l					草地、樹林地に生息する。
トンボ科 ヒメアカネ 75 オオキトンボ 77 コガネグモ科 77キリフンダマシ 75 カフィン・ドリフングマシ 75 カウラインダ科 3ズワラビ 81 マツモ科 マツモ 86 ドクダム科 ハンゲショウ 85 ユキノンタ科 7コノアシ 85 フェキノンタ科 7コノアシ 85 フェキノンタ科 7コノアシ 85	74		NT2								ヨシ、マコモが繁茂する湿地に生息する。
オオキトンボ   77   1カネグモ   70	75		NT2		-						ヨシが繁茂する池沼に生息する。 水生植物が繁茂する湿地などに生息する。
コガネグモ科   コガネグモ   75   オポリノンダマシ   75   オポリノンダマシ   75   オポリノングマシ   75   オポリノングマシ   75   オポリノングマシ   75   75   75   75   75   75   75   7	77				(I	リア不	明)			ļ	コシなどが繁茂する池沼に生息する。
かロオビドリノフグマシ         80           ホウライング科         3           マツモ科         マツモ           ドクダム科         ハングショウ         83           コキノシタ科         クラノアシ         84           Jでライ         クラノアシ         84           Jでライ         フナガボノンロフレモコウ         88	78		ÈN								典型的な里山のクモ、山のふもとで日当たりの良い水田や草地があり、餌となる昆虫が豊富であることが条件とな
ホウライシダ科 ミズワラビ 81 マツモ科 マツモ 82 ドクダム科 ハンゲショウ 85 ユキ/シタ科 タコ/アシ パラ科 ナガボ/シロワレモコウ 88	79	1	NT		_Į					ļ	
マッモ科 マッモ 82 ドクダム科 //ングショウ 83 ユキノシタ科 タコ/アシ 84 //ラ科 ナガボ/シロワレモコウ 88	80 81		NT VU		-		-			<del>                                     </del>	水田や湿地に生育する。
ドクダム科     ハンゲショウ     85       ユキノシタ科     タコノアシ     84       パラ科     ナガポノシロワレモコウ     85	82		EN		1	i					3
パラ科 ナガボノシロワレモコウ 85	83	l	NT			l					
	84				_[	[				<u> </u>	- 小郎もは江沙区の株飾しして、小江井・内田ででとなって
トウダイグサ科 ノウルシ 86	85 86		NT NT	_							水際など氾濫原の植物として、水辺や水田周辺に生育する。
	87		EN EN	$\dashv$	-	- I					水域に生育する浮き草である。
オニビシ 88	88		EN							) 	池沼に生育する浮葉植物
	89		EN		T					<u> </u>	止水域の水中に生育する。
	90				-						水際など氾濫原の植物として、水辺や水田周辺に生育する。 川岸の低湿原野に生育する。
	92		CR EN		-1						池沼に生育する浮葉植物
クマツヅラ科 クマツヅラ 93	93	ı	VU		I						草原や路傍に生育する。
	94		EN		_[					<u> </u>	湿生地に生育する落葉小高木
	95 96		VU EN		-1						水際など氾濫原の植物として、水辺や水田周辺に生育する。
	97				_†					<u> </u>	
オグルマ 98	98	1	NT							ļ	
	99		NT		_[	Ì	]			<u> </u>	湿地や川岸などに生育する
	100 101		V U	+	-1	į				-	止水域の浅瀬を生育環境とする。
	102			-	-						patrick in the new york foliate FD PRETABLE AT 1996
ヤガミスゲ 10	103	3	NT		丁					<u> </u>	湿地や川岸などに生育する
オニナルコスゲ 10	104	4	C R							ļ	湿地や川岸などに生育する
アゼテンツキ 10	105		V CD. E		I					<u> </u>	マロチボッチをに近地する
	106			44	1種	12種	2種				水田や池の水面に浮遊する。
441	-	20利		<b>≖</b> (1	12)	(13)	(3)			59種	
環境省植物目録(18 37)及び日本産野生生物目約 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5港 / 3	類(2002:	年)、鳥類(: 頭(EN) 絶	2002年 滅危惧	)、無	₹脊椎重 (VU)	协物 (20	000年)		5 県上川川川市	(育社(1994)参照。    :近年確認されていない種    :近年確認されていない種    : 平成8年度 川島都市林(仮称)自然環境調査報告書 平成9年3月」    :流河川事務所 「平成14年度 荒川生態系モニタリング調査業務報告書 平成15年3月」    :流河川事務所 「平成16年度 荒川生態系モニタリング調査業務報告書 平成17年3月」    :流河川事務所 「平成16年度 荒川生態系モニタリング調査業務報告書 平成17年3月」    :流河川事務所 「平成17年度 荒川生態系モニタリング調査業務報告書 平成18年3月」    平成6年度調査では、上池は調査されていない。    ブッケを参照。

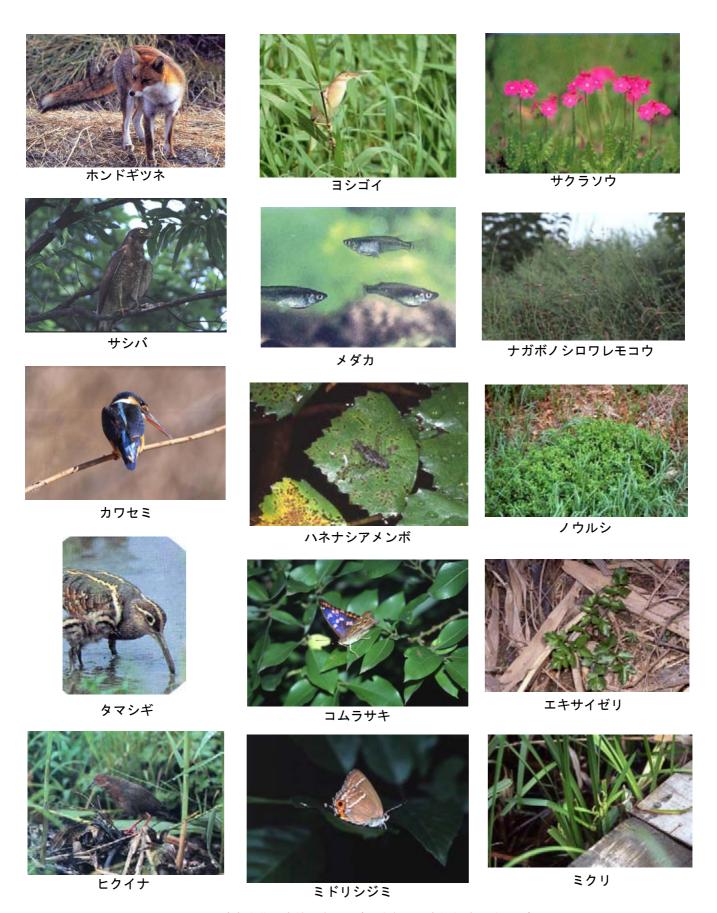


図 1-16 太郎右衛門自然再生地で確認された代表的な希少種の写真

出典;ヒクイナ、ヨシゴイ リバーフロント整備センター「川の生物図典」

# (3)土地利用

#### ア. 土地利用の変遷

荒川下流域は、江戸時代から都市化が進んでいたが、昭和30年以降の高度経済成長により中流域でも都市化が進み自然環境は喪失していった。太郎右衛門自然再生地周辺では、1950年代には樹林地が27%、水田が30%、市街地が39%であったが、1990年代には樹林地が4%、水田が49%、市街地が43%と、樹林地が著しく減少し、現状では荒川の河川部のみが連続した自然環境となっている。

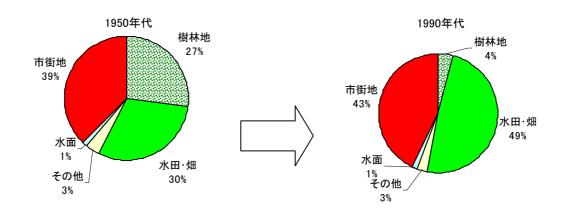


図 1-17 荒川中流域太郎右衛門周辺地区の土地利用の変遷

出典:荒川流域みらい会議資料

#### イ. 太郎右衛門自然再生地の土地利用状況

太郎右衛門地区自然再生地周辺の近年の土地利用状況は、畑・牧草地が31%、水田が23%、人工地が13%であり、水田や畑といった耕作地が全体の5割以上を占め、特に、旧流路の右岸側のほとんどは農用地区域に設定されている。

また、太郎右衛門自然再生地は全域が近郊緑地保全区域、市街化調整区域として指定されている。

#### (4)治水・河川環境に関する計画

### ア. 荒川水系工事実施基本計画

荒川の治水計画は、明治43年(1910年)、 大正2年、3年(1913年,1914年)の洪水を対象として、基本高水のピーク流量を 寄居地点において6,050m³/secとし、ダムによる調節及び遊水地による逓減を見 込み岩淵地点において4,170m³/secとする改修計画が大正7年(1918年)に策定され、その後、昭和22年(1947年)のカスリーン台風など、計画を上回る洪水に再三みまわれたことや流域の社会情勢

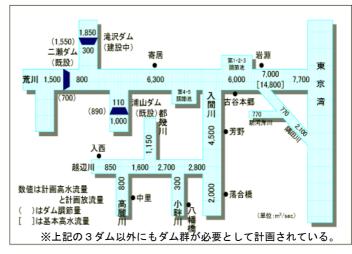


図 1-18 計画している洪水流量の配分図

の変化に対し、治水安全度の向上が求められ、昭和 48 年 (1973 年) に計画を全面的に改定し、現在の「荒川水系工事実施基本計画」が策定された。

計画では、基本高水時のピーク流量を基準地点岩淵において 14,800m³/secとし、このうち上流ダム群及び中流部の川幅の特に広大な部分に設置する調節池群(第1調節池~第5調節池)により7,800 m³/secを調節し、河道への分配流量を7,000m³/secとするものである。

本計画において、太郎右衛門自然再生地は、第4調節池計画地(P42参照)に位置付けされている。

表 1-5 調節池諸元(案)

調節池	池内面積 km <sup>2</sup>	池内計画高水位 AP+m	調節容量 万m³	調節量 m³/秒
第1調節池	5.8	11.925	3,900	850
第2調節池	4.9	14.763	3,700	
第3調節池	2.1	16.013	11,500	3,450
第4調節池	3.2	16.853	2,500	3,430
第5調節池	5.4	22.171	2,900	
計	21.4		14,500	4,300

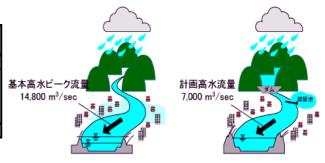


図 1-20 調節池イメージ図



図 1-21 荒川で計画されている各調節池の位置

# イ. 河川整備基本方針と河川整備計画

平成9年(1997年)の6月に改正された「河川法」により、これまでの治水、利水に加え「河川環境の整備と保全」が新たに位置付けられるとともに、地域・流域との連携、住民意見の反映が今後の川づくりの重要な項目として設定された。改正された河川法では「荒川水系工事実施基本計画」に代わり、今後、河川を整備・維持管理していくにあたっては、河川の整備について、長期的な目標となる洪水の流量など基本的な事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後概ね30年後を目標に地域の特性や歴史・文化なども考慮した荒川にふさわしい姿を記した具体的な「河川整備計画」を定めることとされている。

平成13年(2001年)3月に設立され、流域住民、学識者、関係市町村及び河川管理者(国土交通省、埼玉県、東京都)が参加した「荒川流域みらい会議」等において、「荒川河川整備計画(案)」 策定にむけた意見の集約が行われた。

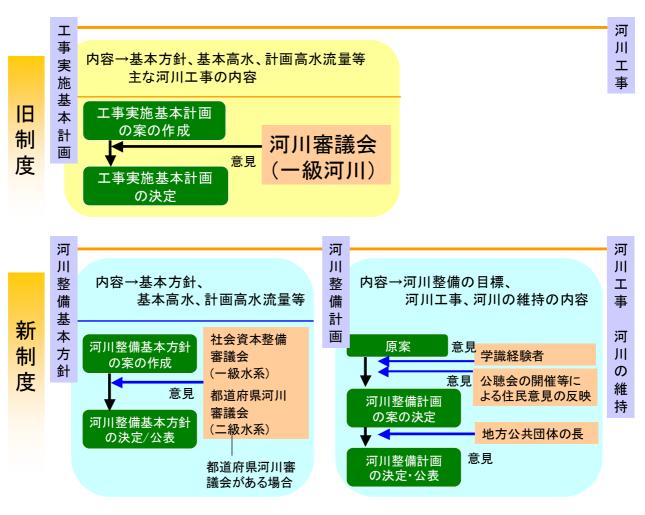


図 1-22 河川整備基本方針と河川整備計画の策定の流れ

# ウ. 荒川水系河川環境管理基本計画

河川環境基本計画は、昭和56年(1981年)12月の河川審議会の答申により、河川環境の保全と 創造に係わる施策を総合的かつ計画的に実施するため河川環境管理の基本計画を作成することと されている。

荒川では平成2年(1990年)3月に、河川管理者である旧建設省関東地方建設局、埼玉県並びに東京都によって、流域の動向や将来の見通しに基づいた長期的かつ広域的な視野に立って、荒川水系の望ましい河川環境を保全・創造するための「荒川水系河川環境管理基本計画」を作成している。 策定に当っては、河川環境に関わる各分野の学識者、沿川自治体、河川管理者並びに水資源開発公団で構成する「荒川水系河川環境管理協議会」を設置し、その意見を求めた。

また、「荒川水系河川環境管理基本計画」に基づき、河川空間環境の保全と利用を適性に行うため、河川区間を計画対象区域として、「荒川水系河川空間管理計画」が策定され、その後平成9年3月に改訂された。

当該地区は、河川敷に分布する旧河道、ヨシ原、砂洲、樹林地等の変化に富んだ自然環境の保全を図るとともに必要に応じ、自然地の復元・拡大を行う「保全ゾーン」と自然度の高い保全ゾーンを保護する緩衝機能を有し、またその間の生物の移動経路となるゾーンとして、その機能の維持が図れるよう適切な管理を行う「緩衝・移行ゾーン」に区分されている。

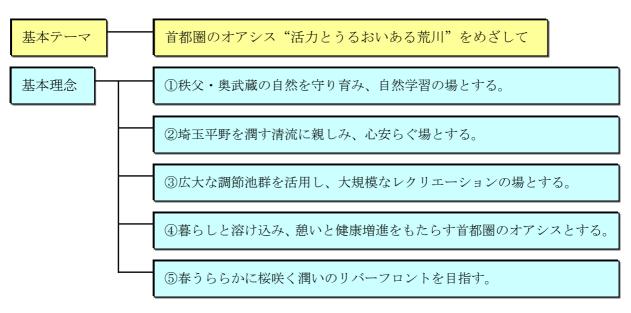


図 1-23 荒川水系河川環境管理基本計画の基本テーマおよび5つの基本理念







# (5) その他当該地区に係わる構想等

### ①自然環境の総点検等に関する協議会

政府が進める都市再生プロジェクトに関連して、平成13年(2001年)12月4日に都市再生本部で決定された都市再生プロジェクト「まとまりのある自然環境の保全」を具体的に推進するため、国土交通省を始めとした関係省庁と東京都など七都県市による「自然環境の総点検等に関する協議会」が設立された。

この協議会の中間報告として、首都圏 50km 圏内を対象とし、生物多様性保全の場や人とのふれあいの場といった自然の多面的な機能を評価した、「保全すべき自然環境の総点検」において、太郎右衛門地区を含む「荒川・江川ゾーン」は、首都圏の保全すべき自然環境の1つとして選出されている。

### ②川島都市林(仮称)計画

埼玉県において、都市公園整備の一環として、太郎右衛門自然再地の下池周辺部を対象地区とし、 荒川中流域の自然と風景を守り、次世代に引き継ぎ、荒川の豊かな自然環境と魅力ある田園環境を 楽しみ、ふれあい学ぶことを目的とした公園の整備を計画している。

### ③ 荒川エコロジカル・ネットワーク

荒川上流河川事務所では、荒川ビオトープや三ツ又沼など、自然の拠点の保全・整備を進めている。荒川流域全体の自然のつながりを強化するためには、第一段階として、生態系が健全に機能する、ある程度まとまった「核」となる自然の拠点を守り、その自然を回復させることが重要である。さらに第二段階として、それらを川、谷地、傾斜林などを軸として互いに結び、市街地の自然とつなげていくことで、荒川流域全体の自然を豊かにしていくことを計画している。

太郎右衛門自然再生地は、上下流に位置する荒川ビオトープ、三ツ又沼ビオトープや周辺の北本自然公園などをつなぐエコロジカル・ネットワークの核として重要な地域である。

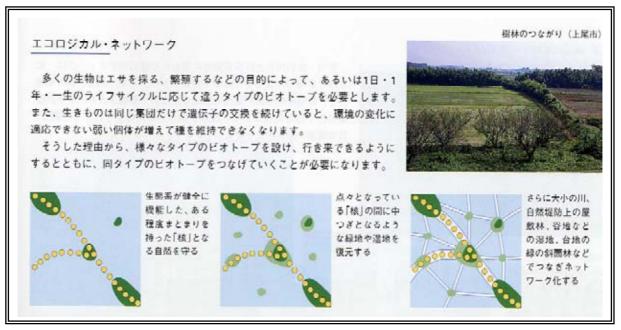


図 1-24 エコロジカル・ネッワークの考え方

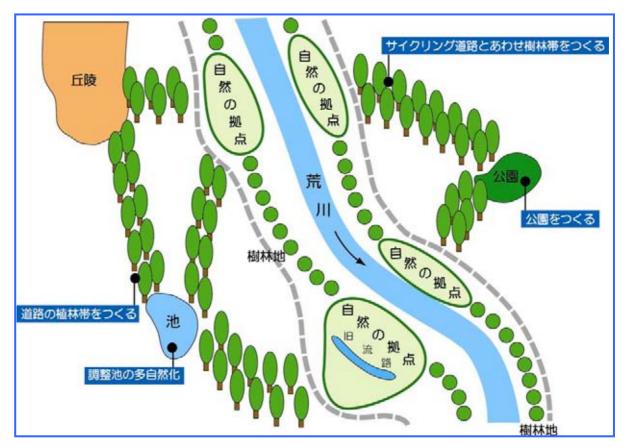


図 1-25 荒川流域でのエコロジカルネットワークの概念図

# 第4節 荒川太郎右衛門自然再生地の課題

# (1) 自然環境の課題

現状で考えうる自然環境に対する主な課題を図 1-26 に整理する。

- ① 乾燥化により、池を中心とした湿地が減少してきている。
- ② 池周辺に発達した樹林地が高木・壮齢樹化することによる極相化(単調化)してきている。

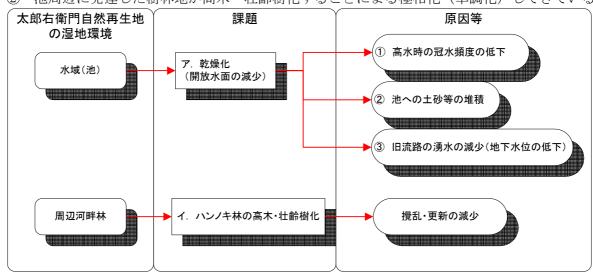


図 1-26 太郎右衛門自然再生地の課題と原因

# ア. 乾燥化 (開放水面の減少)

上池、中池では、開放水面の減少が特に著しい。昭和20年代からの空中写真よりもとめた、 上池および中池の開放水面の面積変化を図1-27に示す。その原因として、本文26ページ以降 に挙げる①から③が考えられる。

表 1-6 空中写真による開放水面 の面積の推定 単位:ha

の面積の定と 十四・11位								
	上池	中池	下池					
昭和20年代	5.45	8.88	1.34					
昭和30年代	3.99	7.74	2.10					
昭和40年代	3.17	6.73	1.62					
平成5年	1.97	5.33	0.93					
平成12年	0.99	5.37	1.04					
昭和40年代平成5年	3.17	6.73 5.33	1.62 0.93					

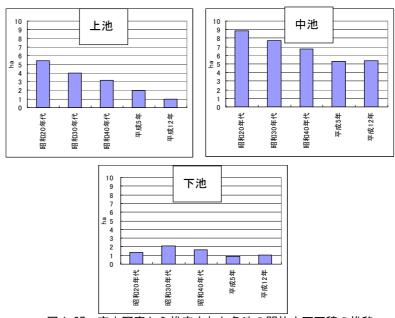
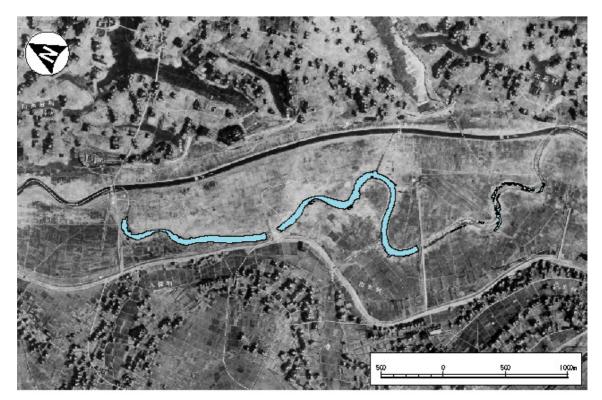


図 1-27 空中写真から推定された各池の開放水面面積の推移

昭和20年代からの空中写真による開放水面の面積の推定では、上池及び中池に関しては年代を追う毎に減少している。下池に関しては、旧流路の下流端として本川と繋がっているため、水が溜まりにくい形状となっていることにより、昭和20年代より開放水面は比較して少なく、明確な減少傾向は見られない。



昭和 20 年代 (1945~1954年)



平成 12 年 (2000 年)

図 1-28 空中写真による開放水面の推定